オーシャンライフベルト式膨張式救命胴衣
取扱説明書

Ｎｏ	膨張装置	品名	型式
①	自動膨張式	作業用兼小型船舶用	ＷＲ－１型
②	手動膨張式	小型船舶用	ＷＲ－３型

当取扱説明書では、ＷＲ－１型・ＷＲ－３型の２型式を説明しております。ご購入頂いた、製品の型式をご確認の上、型式別に内容をお読みください。

改正　２０１２年　１月

－－目次－－

安全にご使用頂くための注意事項

※ご使用の前に、必ずお読みください。

この取扱説明書は製品を安全に正しくご使用頂くためのものです。
取扱説明書はいつでも読めるように大切に保管してください。

本書では正しい取扱に関する事項を下記のマークで表示しています。

危険

危険:取扱いを誤った場合に死亡または
重傷に至る可能性が想定される場合。

警告

警告：取扱いを誤った場合に重傷に至るまた
は物的損害などの可能性が想定される場合。

注意

注意：正しい使い方についてのポイント
を示しています。

危険：取扱いを誤った場合に死亡または重傷に至る可能性が想定される場合。

◎膨張式救命胴衣の着用者は年齢が１２歳以上でなければなりません。

◎膨張装置を作動させた場合は使用しないでください。
膨張装置を一度作動させると、ガスボンベ内のガスが無くなり再使用できません。この場合はご購入された店か最寄りの販売店にてガスボンベを購入し、交換してから使用してください。
（本誌１５～１６ページ参照）

◎自動膨張装置が水などに濡れると、自動膨張装置内のスプールが水に溶け再使用できません。（ＷＲ－１型説明）
この場合は、ご購入された店か最寄りの販売店にてスプールを購入し、交換してから使用してください。（本誌１２～１４ページ参照）

◎突起物や鋭利な物（針が付いている物・ボールペン・ハサミなど）は着用前に身体から取り外してください。
気室生地を傷つけ、使用できなくなる恐れがあります。

◎膨張式救命胴衣は衣服の上に正しく着用してください。
衣服の下に着用すると、膨張時に胸が圧迫され呼吸が困難になり、着用者が怪我をする恐れがあり危険です。

◎膨張式救命胴衣は、急流時・高波時・水上スキー・ＰＷＣなどの着用者が常に濡れている状態及び高速を伴う活動での使用はやめてください。

◎着用する前に、バックル・各ベルト部が破損していないか確認してください。落水時、救命胴衣が身体から外れる恐れがあります。

◎着用する前に、膨張装置が装着されているか、未使用のガスボンベが正しく取り付けられていることを確認してください。

◎膨張式救命胴衣を膨張させた状態で、水中に飛び込まないでください。救命胴衣が身体から外れる恐れがあり危険です。やむを得ず飛び込む場合は両手で救命胴衣を抱きかかえ、しっかりと身体に固定してから飛び込んでください。

◎水中に浮いている場合は膨張式救命胴衣を破損する恐れのある物には近づかないでください。気室を傷つけ、気室内のガスが漏れ危険です。

◎膨脹式救命胴衣の取扱時は火気厳禁にしてください。
気室生地は、ポリウレタン加工した引布で作られていますので火気に近づけると気室生地に穴があき救命胴衣が膨脹しない恐れがあります。

◎１年に１回、定期的な点検をご購入された店か販売店を通じて製造会社に依頼することをおすすめします。（本誌９ページ参照）

◎救命胴衣は改造などしないでください。その場合、国土交通省型式承認認定品でなくなります。

◎自動膨脹式ライフジャケットは、落水時に水を感知する事により膨脹する仕組みとなっておりますが、当該機能はあくまで補助的なものであります。この為、海上に脱出する場合や、万一落水された場合は、まず手動レバーを引いて膨脹させるようお願い申し上げます。

警告

警告：取扱いを誤った場合に重傷に至るまたは物的損害などの可能性が想定される場合。

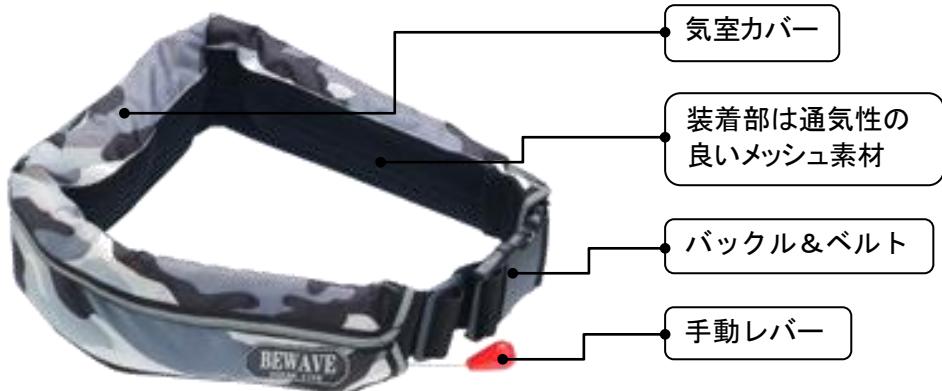
◎膨脹式救命胴衣は救命用ですので他の用途に使用しないでください。

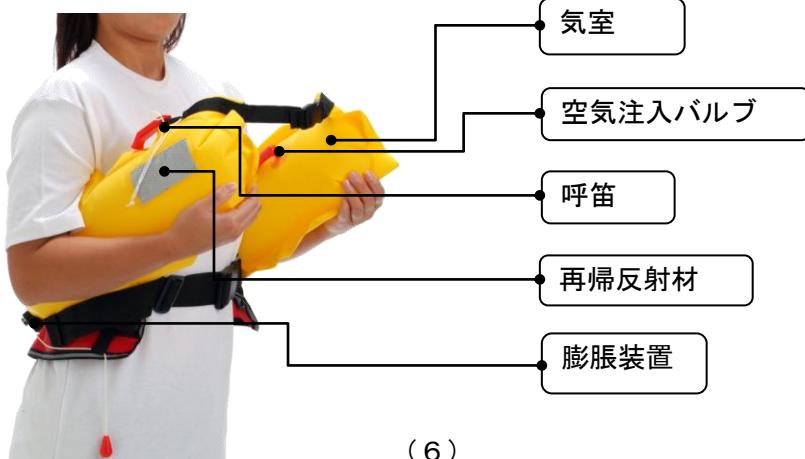
◎着用する前に、気室が膨らんでいないことを確認し、膨らんでいる場合は、ガスボンベからガスが漏れている場合があります。
この場合、必ず膨脹装置からガスボンベを外し、ボンベの封板に穴や亀裂がないか確認してください。（本誌１５～１６ページ参照）

◎着用時のサイズ調節はウエストサイズに合うよう各ベルトを調節してください。あまったベルトはベルト通しに固定してください。
（本誌１０ページ参照）

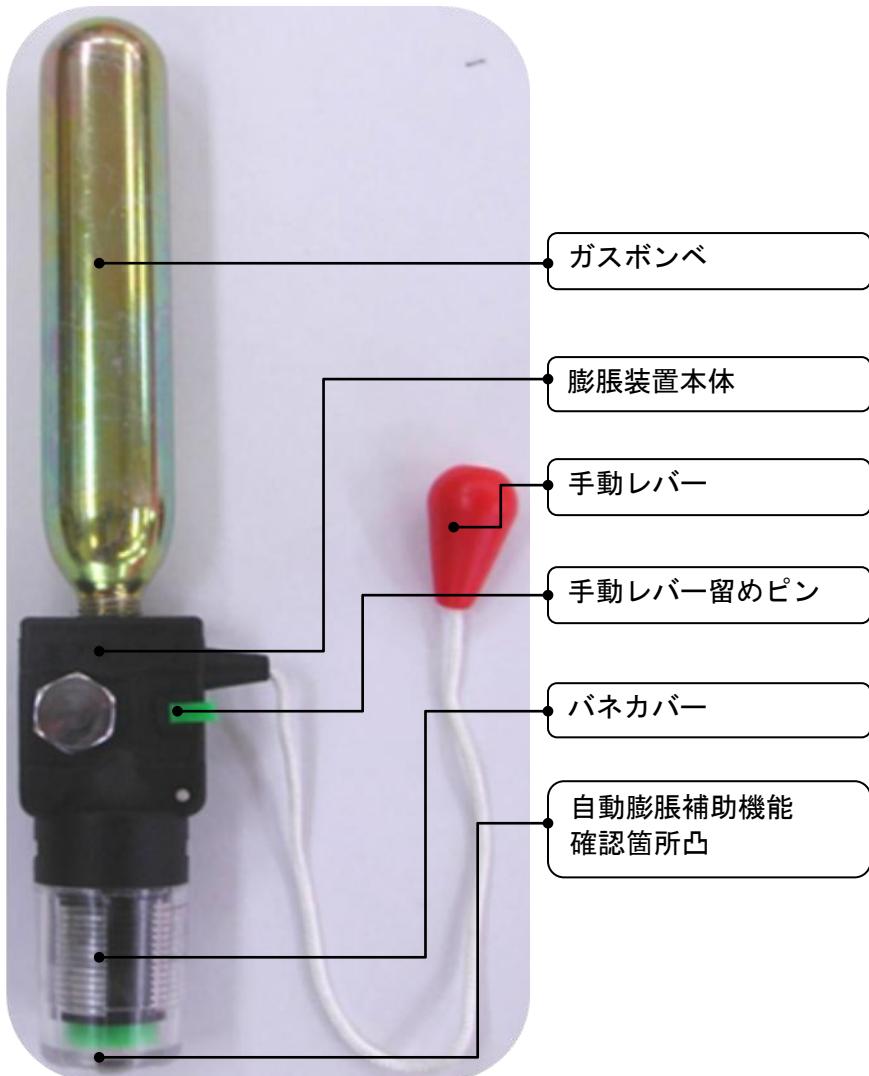
◎膨脹式救命胴衣を単体で運搬移動する時は、決められた方法（本誌１８ページ参照）で折りたたんでください。また、荷物などの下に置かないでください。破損・劣化などの原因になります。

◎保管場所は、自動車内・船内などの高温多湿な場所を避けオイル・燃料・溶剤などのそばに置かないでください。（本誌１９ページ参照）

◎膨脹式救命胴衣は所有者が責任を持って点検・整備してください。
（本誌９ページ及び２１～２３ページ参照）

１・商品概要及び構造

（１）概要

・気室は、ナイロン生地にウレタン加工した引布で作られ、膨脹後の浮力は（ＷＲ－１型で約２０ｋｇｆ・ＷＲ－３型で約１０ｋｇｆ）です。（水中での必要浮力は、一般的に陸上体重の１／１０といわれています）
・自動（ＷＲ－１型）又は手動で膨脹できるよう作られています。
・海上で発見しやすいように救命胴衣の気室の色は黄色になっています。
・夜間発見がしやすいように、再帰反射材が取り付けてあります。
・救命用の呼笛が取り付けてあります。
・気室の裏側には、カバー生地が有り収納時、気室の破れ、汚れなどを保護するようになっています。

（２）構造（写真はＷＲ－１型）

Ａ・通常着用時

Ｂ・膨脹時

Ｃ・自動膨張装置（ＷＲ－１型説明）

この装置は水中に落水すると自動膨張装置内にあるスプールが水に溶け作動し炭酸ガスが気室内に充気されるようになっています。万が一落水時に膨張装置が作動しなかった場合は、緊急手動レバーを強く引くことで膨張装置が作動し、気室内に炭酸ガスが送気され膨張します。

※自動膨張機能確認箇所凸がへこんでいる場合、自動膨張機能が作動したことを確認できるようになっています。

Ｄ・空気注入バルブ

このバルブは、気温・水温などの環境変化により気室の内圧が低下し十分な浮力が得られなくなった時、気室に空気を補充するための物です。また、空気を気室から排気する時にも使用します。

●空気の補充

下記のように息を吹き込み空気を補充します。

●空気の排気

気室内の空気を排気する時は、キャップを外し空気注入バルブの先の中部分を棒状の物で押し込むと空気が排気されます。

危険	気室を膨脹させた後は、気室内の空気を完全に排気してください。気室内に空気が残っていると炭酸ガスで膨脹した時、気室が破裂する恐れがあります。

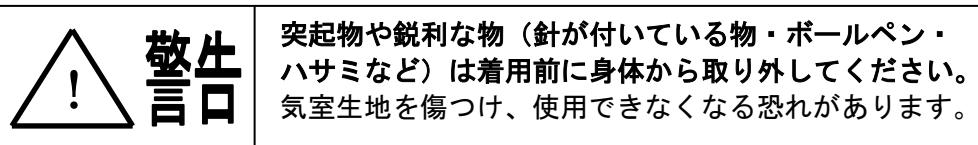
２・使用前の点検

この救命胴衣を安全に使用するために、必ず以下の点について点検し
異常がある場合は使用をしないでください。

●点検要領

Ａ・気室及びカバー生地が破損していないか確認してください。
Ｂ・縫製部分の糸のホツレ及び糸切れがないか確認してください。
Ｃ・収納用マジックテープ（ＬＧ－１型及びＬＧ－３型）・収納用ファスナー（ＲＥ－５型）が破損していないか確認してください。
Ｄ・手動レバーがすぐに引ける状態であることを確認してください。
Ｅ・各部ベルト及びバックルが破損していないか確認してください。
Ｆ．気室内に空気が入っていないか確認してください。
Ｇ・空気注入バルブが破損していないか確認してください。
Ｈ・膨張装置及び未使用のガスボンベが装備されているか確認してください。
Ｉ・ガスボンベの封板にキズ及び穴が開いていないか確認してください。
Ｊ・ガスボンベのネジこみが緩んでいないか確認してください。
（本誌１６ページ参照）
Ｋ・自動膨張機能確認箇所凸が出ているか確認してください。
出ていない場合、自動膨張機能が作動したことが想定されますので使用をしないで、スプールの交換・膨張装置の破損・ボンベの確認をしてください。（ＬＧ－１型・ＲＥ－５型の説明）
（本誌１２～１４ページ参照）

上記、Ａ～Ｋの異常を発見したときは、使用をやめご購入された店か最寄りの販売店を通じて、製造会社に連絡の上、点検・修理を受けてください。
そのまま使用すると危険を招く恐れがあります。

点検・修理連絡先
株式会社オーシャンライフ
〒６４４－０００５　和歌山県御坊市名屋町２丁目８番地の１
ＴＥＬ　０７３８－２３－４６１６
ＦＡＸ　０７３８－２３－２６５０
ocean@lifejacket.jp

３・使用方法

突起物や鋭利な物（針が付いている物・ボールペン・ハサミなど）は着用前に身体から取り外してください。
気室生地を傷つけ、使用できなくなる恐れがあります。

（１）着用方法

①本体のカバー生地に付けられている右記マークを確認していただき文字が正しい方向になるようにしてください。

②手動膨脹作動ヒモ（赤い丸の付いたヒモ）を右手側にし製品裏側（黒色メッシュ生地側）を腰回りに当て、バックルを体の前で止めてください。

注意：救命胴衣本体は腰側・バックルは体の前側になるよう着用してください。

③腰ベルトは救命胴衣着用後、サイズ調節できるようになっています。ベルトの末端は垂れ下がらないようベルト通しに入れ気室カバー内に収納してください。

①

②

③

（２）膨張方法

①ＷＲ－１型（自動式）には自動膨張装置が装着されています
自動膨張装置は水を感知し救命胴衣を膨張させます

②ＷＲ－１型・ＷＲ－３型を手動で膨張させる時はまずは左手で救命胴衣本体の左端を強く握り固定してください。
次に右手で膨張装置に取り付けられているヒモ（赤い丸の付いたヒモ）を体から前側に引いてください。その時、左手は離さず固定してください。

注意：下側に引くと膨張装置が作動しない場合がありますので必ず、前側に引いてください。

③膨張が不充分な場合は呼気注入口から空気を注入してください。

（３）膨張後の使用方法

①着用した状態で気室にガスが充満するとＵ時型に膨張します。
膨張初期は腰の位置に気室が有りますので出来るだけ脇の下に気室が来るように上に引き上げて着用して下さい。

②気室の両端に有る前止めベルトのバックルを止めてください。

③少し仰向け状態で浮遊し、体が気室から抜けないように脇を締めてください。

（４）日常の手入れ方法

①カバー生地に汚れ及び海水による塩分等が付いている場合、自動膨脹装置に水が入らないように注意して真水で洗い流してから陰干し十分乾燥させてください。

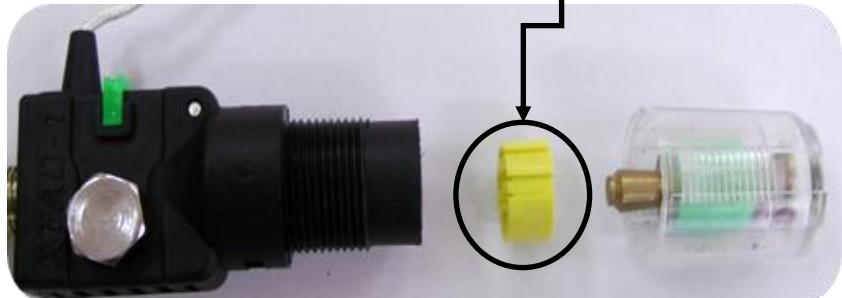
②汚れが付いた時は、ガーゼなどに中性洗剤を浸し、軽く叩くようにして洗浄し、真水を浸したガーゼで洗剤を取り去り、陰干しして十分乾燥させてください。

注意：正しい使い方についてのポイントを示しています。

●洗濯機で洗ったり、もみ洗い・乾燥機で乾かすなどをすると気室生地のポリウレタン引布に亀裂が入る恐れがありますので避けてください

●洗剤にガソリンなどの溶剤は使用しないでください。また洗浄の際に自動膨脹装置には水をかけないでください。自動膨脹機能が作動する恐れがあります。

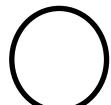
●どうしても丸洗いする時は、ガスボンベ及びスプールを取り外した状態で洗浄してください。ガスボンベ及びスプールの取り付け及び取り外し方は本紙１２～１６ページ参照してください。（ＷＲ－１型の説明）

（5）自動膨脹機能作動後のスプールの交換方法（WR－1型の説明）

注意：正しい使い方についてのポイントを示しています。

●スプールを交換する時は膨脹装置本体のスプール挿入部分を良く乾燥させてください。水分が残っているとスプールが溶け、自動膨脹機能が作動し、ガスが放出する場合が有ります。

①使用済みのガスボンベを回し取り外す（型式別にガスボンベの大きさが異なります）（写真はＷＲ－１型）

②スプールカバーを回して外し使用済みスプール（黄色の丸い部品）
　を取り外す

③ガスボンベ及びスプールを取り外しスプールの錠剤の溶け残りが
　有りますので真水で膨脹装置を洗浄する。
　この時に本体の洗浄も可能です。
　洗浄後は陰干しを行い水気が無くなるまで乾燥させて下さい。
※洗浄後、膨脹装置のボンベに穴を開ける針部分にサビ止溶剤等を
　使用することをお勧めいたします。

④新しいスプールの白い錠剤が見える方にスプールカバーの鉄芯を
　差し込む

鉄芯を差し込む面

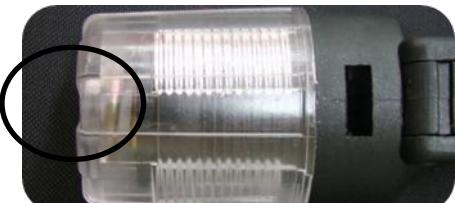
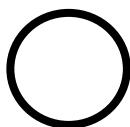
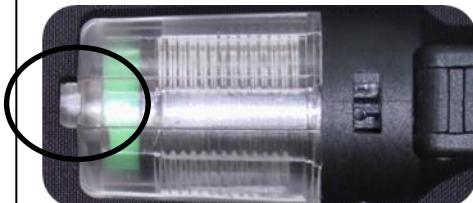
この面には差し込まないで下さい

⑤鉄芯への差し込みは３mm 程度入ると止まります。

※過度の力で差し込むとスプールが破損しますので注意して下さい。

差し込まれた状態 →

⑥スプールを鉄芯に差した状態でスプールカバーを

膨脹装置本体へ取り付ける

⑦緑色の留ピンを取り付ける

⑧スプールが正常に取り付けられているか確認する

正常な状態で使用可能(バネカバー内にグリーンのマークが有り凸が約3mm程度出ている)	異常な状態で使用不可(バネカバー内にグリーンのマークが無く凸が出ていない)

（6）作動後のガスボンベの交換方法

注意

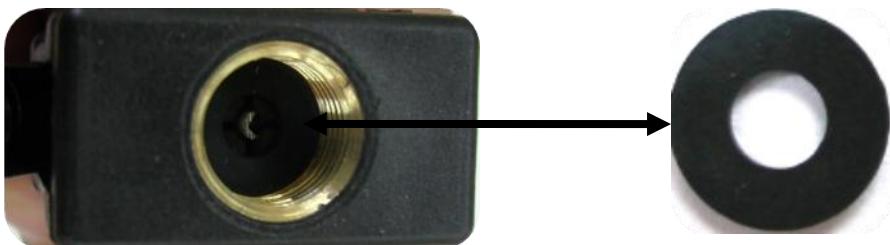
注意：正しい使い方についてのポイントを示しています。

●ガスボンベ取り付け部内の針が上に出ている状態では新しいガスボンベを挿入しないでください。挿入するとガスが放出されます。

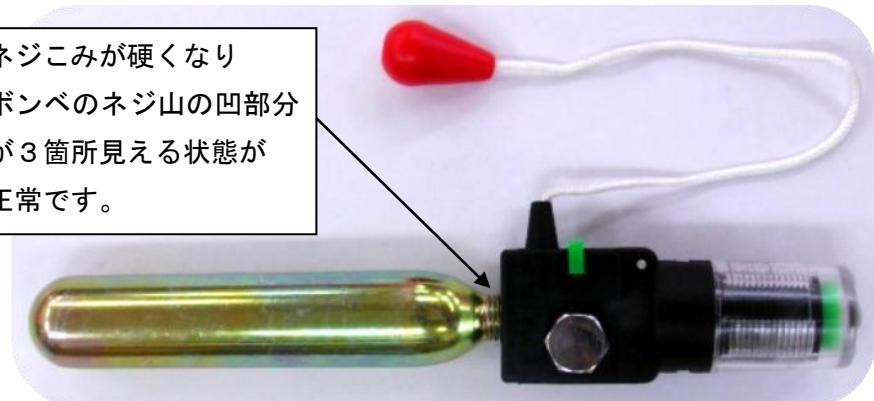
①ライフジャケット本体記載の型式名別にガスボンベの容量が異なりますので下記の内容をご確認下さい。

●型式名：ＷＲ－１型　浮力２０ｋｇｆタイプ
ガスボンベ本体に下記の表示が有る物をご使用下さい。
「ＮＷ３３Ｇ　ＣＯ2」

●型式名：ＷＲ－３型
浮力１０ｋｇｆタイプ
ガスボンベ本体に下記の表示が有る物をご使用下さい。
「ＣＯ2　１７Ｇ」

②使用済みの炭酸ガスボンベを回し取り外す（型式別にガスボンベの大きさが異なります）

自動膨脹装置「NW33G CO2 ガスボンベ」

手動膨脹装置「CO2 17G ガスボンベ」

③ガスボンベ取り付け内部に有るゴムパッキンを交換する。

④新しいガスボンベを取り付ける

※ネジこみが少し硬くなったところから更に1／4～1／2回転ネジこんで下さい。

※過度にネジこむとボンベ底に針が当たりキズを付けるので注意して下さい。

⑤注意事項

・自動膨脹式ライフジャケット

型式名：WR－１型の場合

スプール及びガスボンベの両方を交換する時は最初にスプールを交換した後にガスボンベを交換して下さい。

・手動膨脹式ライフジャケット

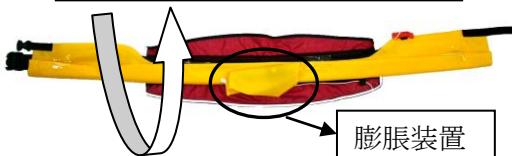
型式名：WR－3型の場合はガスボンベのみ交換をして下さい。スプールの交換は不要です。

（7）膨脹装置の部品について

●膨脹式ライフジャケットの交換用部品について
お手持ちの交換用部品と製品の型式名をご確認下さい

※K－A20
自動膨脹式ライフジャケット用交換用ボンベ＆スプールセット
対応型式名：WR－1型
①ガスボンベ （重量約147g）
②手動レバー留めピン
③スプール （自動式のみ）
④ゴムパッキン

※K－M10
手動膨脹式ライフジャケット用交換用ボンベセット
対応型式名：WR－3型
①ガスボンベ （重量約81g）
②手動レバー留めピン
③ゴムパッキン

４・救命胴衣の収納時の折り畳み方

①気室内の空気を完全に排気し、平らに広げてください。

②上側に半分、折りたたんで下さい。

③膨脹装置が上側に来る様にもう一度折りたたんで下さい。

膨脹装置

④両端に出ている生地を折りたたんで下さい。

⑤膨脹装置保護カバーを被せて下さい。このカバーは雨よけですので必ず被せて下さい。

⑥右側のベルトと気室生地縫製部を起点に中央に折りたたんで下さい。

⑦同じ様に左側を折りたたんで下さい。

⑧気室をカバー生地で包むようにし、マジックテープを止め手動レバーが外側に有るか確認して下さい。

５・保管

警告：取扱いを誤った場合に重傷に至るまたは物的損害などの可能性が想定される場合。

●保管場所は、自動車内・船内などの高温多湿の場所を避け燃料・溶剤などのそばに置かないでください。

●保管方法
Ａ・直射日光の当たる場所を避けてください。
Ｂ・換気が良く乾燥した場所に保管してください。
Ｃ・暖房装置の近くなど、高温の場所に置かないでください。
Ｄ・他の物の下積みになる場所は避けてください。
Ｅ・ネズミの害のある場所は避けてください。
Ｆ・炭酸ガスボンベは温度４０℃以下の場所に保管してください。
Ｇ・自動車内・船内などの密封された場所に長時間保管するのは避けてください。

注意：正しい使い方についてのポイントを示しています。

●洗濯機で洗ったり、もみ洗い・乾燥機で乾かすなどをすると気室生地のポリウレタン引布に亀裂が入る恐れがありますので避けてください。
●洗剤にガソリンなどの溶剤は使用しないでください。また洗浄の際に自動膨張装置には水をかけないでください。自動膨張機能が作動する恐れがあります。
●どうしても丸洗いする時は、ガスボンベ及びスプールを取り外した状態で洗浄してください。ガスボンベ及びスプールの取り付け及び取り外し方は本紙１２～１６ページ参照してください。（ＷＲ－１型説明）

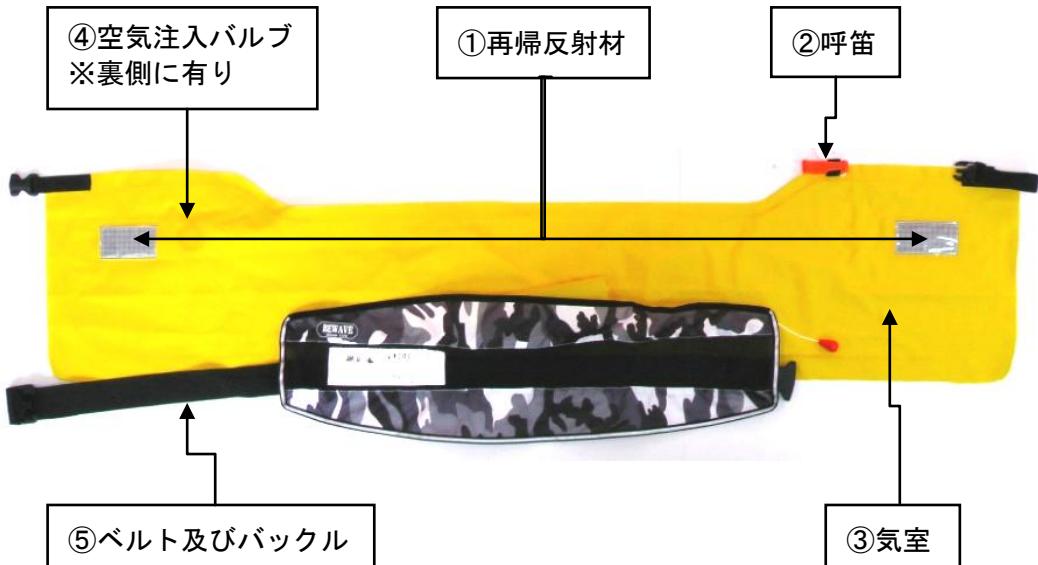
６・交換の目安

（１）救命胴衣本体

救命胴衣の気室及びカバー生地に以下のような状態が発生した場合、修理不能の状態のため交換してください。

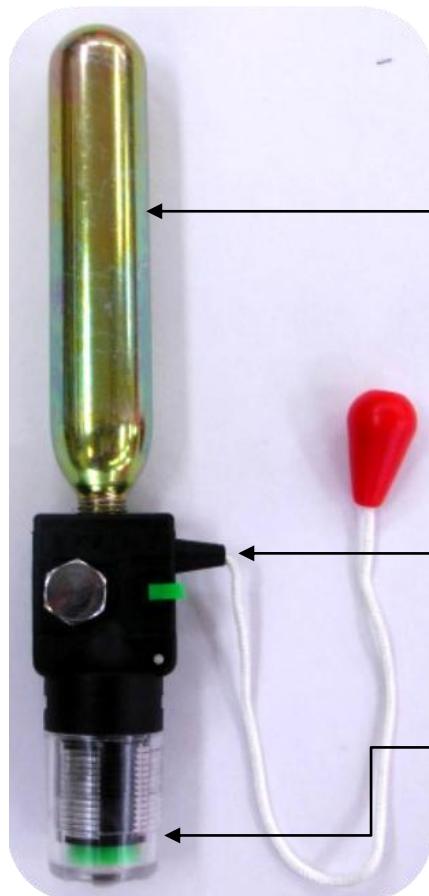
Ａ・気室が破損しているとき。
Ｂ・空気注入バルブが破損しているとき。
Ｃ・カバー生地が破損しているとき。
Ｄ・その他、製造会社が救命胴衣の破損部を修理不可能と認めたとき。

（２）膨脹装置

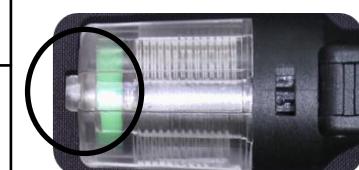
炭酸ガスボンベ及びスプール（ＷＲ－１型のみ）は以下のような場合交換してください。

Ａ・救命胴衣を膨脹装置で膨脹させたとき。
Ｂ・ガスボンベに錆び・傷等が有るとき。
Ｃ・スプールは購入後３年を経過したとき。
Ｄ・その他、製造会社が膨脹装置の破損部を修理不可能と認めたとき。

７・定期点検整備基準

（１）本体の外観点検

●救命胴衣本体のマジックテープを全部開き下記のように広げ、
　写真と救命胴衣本体を確認し①～⑤の箇所を点検する。

点検箇所	合　否　基　準
①再帰反射材	はがれや破損がないこと
②呼笛	破損がないこと
③気室生地	破損・汚れ等がないこと
④空気注入バルブ	破損がなく逆支弁が正常に動作すること
⑤各部生地・ベルト 及びバックル類	破損がないこと

（２）自動膨脹装置点検

●ガスボンベを取外し下記の写真と膨脹装置を確認し
　下記⑥～⑧の項目を点検する。

点検箇所	合　否　基　準
⑥ガスボンベ	ネジ山部底面に穴が開いていないこと
	重量を測りＷＲ－１型１４７ｇ以上 ＷＲ－３型８１ｇ以上であること
⑦手動レバー	緑色の留めピンは取付られていること
	手動レバーのヒモに破損等が無いこと
⑧自動膨脹機能 （自動式のみ）	手動レバーを引き針がスムーズに出ること
	救命胴衣の製造年月及びスプール交換から３年を経過していないこと
	自動膨脹機能確認箇所凸に下記写真のように約３ｍｍの突起が出ていること

（３）気室生地点検

⑨ 空気注入バルブから常用圧力１０ｋPa の空気を入れ１２時間以上放置し破損はがれ・その他の異常が無いかを検査する

製造年月			
製造番号			
点検箇所	合否判定	合否判定	合否判定
①再帰反射材			
②呼笛			
③気室生地			
④空気注入バルブ			
⑤各部生地・ベルト及びバックル類			
⑥ガスボンベ			
⑦手動レバー			
⑧自動膨脹機能			
⑨気室生地膨脹			
整備内容			
ガスボンベ交換有無			
スプール交換有無（自動式）			
その他部品の交換			
備考			